

成人の歯ぎしり 治療は、歯科と内科が連携

(2024年2月)

・レム睡眠行動異常症とは

成人の歯ぎしりやくいしばりの多くはレム睡眠行動異常症によるものです。通常、レム睡眠中は筋肉が弛緩して、夢を見ても実際に体を動かすことはできないのですが、レム睡眠行動異常症はレム睡眠中の筋弛緩がなくなって筋肉が動くため夢の中の行動をそのまま引き起こします。この異常行動は、睡眠中の歯ぎしりやくいしばりから始まり、明瞭な寝言や激しい体動（同衾者を傷つけるような暴力的な行動のこともある）を続発させ、最終的にはシヌクレイノパチー（パーキンソン病、レビー小体型認知症、多系統萎縮症）という重大な脳の変性疾患に進展してしまいます（転帰説明図）。

・診断

診断には口腔や咽頭機能を解析できる特殊な睡眠ポリグラフ（Hybrid PSG）が必要です。

・治療

この疾患は、早期から歯・歯肉・歯槽骨・顎関節を侵しますので（病態写真）、それを防ぐマウスピースを導入し、異常な筋収縮を抑えるためには歯科では芍薬甘草湯（しゃくやくかんぞうとう）、医科では柴胡加竜骨牡蛎湯（さいこかりゅうこつぼれいとう）、酸棗仁湯（さんそうにんとう）、抑肝散（よくかんさん）、抑肝散加陳皮半夏（よくかんさんかちんぴはんげ）という漢方薬の処方が可能です。もし症状が収まらなければクロナゼピンやプラミペキソールといった強力な西洋薬を使います。さらにシヌクレイノパチーの症状が現れたら脳神経内科にバトンを渡し、歯科は摂食嚥下を管理し、誤嚥予防で患者を支えます。



悪化した歯ぎしり
歯の表面に細かな亀裂が生じ、歯が崩壊する

